2016年12月2日（あと12日！）

GPリーダーシップ教育班　議事録（メンバー：岡野、豊田、横井）

☆今回話し合ったこと

・前回、問題の設定を「日本のエリート教育は精神面の育成が不十分である」とし、その原因について、仮設を立てて、検証していこうとしていた。

→しかし、これだと戦前から戦後にかけての学校教育に対する人格形成のイメージなどを見ていくことになる

→それだと、研究に値しないのでは？また民衆が持つ学校教育に対する人格形成のイメージが変わった瞬間を見出すことは不可能では？

・問題の設定を変えて「日本は早い段階から選抜は行っているのに、選抜された後のエリート的人格形成教育が実施されていないのではないか？」にしよう

→早い段階をいつにしようか？他国と比較する際にも、中等教育段階といったざっくりとしたくくりでみていこう！（中学校が○年とか高校が×年と、異なることが多いから）

→あと、エリート的人格形成についても細かく規定したほうがいいのでは？

→中等教育段階に着目したので、ハヴィーやエリクソンの発達段階から見ると、中等教育機関では「社会的責任感（奉仕の精神と倫理観）」を身に着けることが大切なのでは？

→日本のエリート養成を行っていそうな中高の時間割などを集めて、社会的責任感を育むようなカリキュラムがどの程度行われているのかについて客観的なデータを作り出せないか？また、それを他国と比較できないだろうか？

☆宿題としてやってきたいこと

①官僚を多く輩出している大学（東大、京大、東北大、早稲田、慶應）への進学率の高い高校ベスト５０くらいを洗い出す。

②その高校でのカリキュラム（時間割）がどのようになっているか、という資料を集めてくる。

☆次回話すこと

①カリキュラムを集めてみて、比較検討は可能かどうか考える（無理ならほかの手法を考える）

②比較対象国を決める

③レジュメの流れで必要な資料を確認し、整理しなおしておく（できれば）